

《救いの十字架》

福音が読まれる時、私達は額と口と胸に小さな十字架を刻みます。これは2世記まで遡る一番古い十字架の印です。当時はまだ迫害があり大きな十字架をきるとすぐ捕まってしまうような時代でした。十字架に架けられたのはイエス様だけではなく色々な殉教者達が十字架に架けられました。特にアジアの日本、韓国、中国、ベトナムは近代において多くの殉教者を出した国です。ベトナムでは1975年、つい30年前にも殉教者を出しています。

今年ペトロ岐部と187殉教者の列福式が12月24日に行われます。ちょうど400年位前の殉教者です。当時、殉教者は何人位いたでしょうか？日本だけで2万人の殉教者が出ました。フランシスコ・ザビエルが1549年日本に来て以来60年、日本での信者数は40万人と言われています。ですから20人の信者の内1人が殉教している割合になります。今日ここに160人の人がいるとすると8人が殉教することになります。もしここで8人選ばれるとしたら、進んで手を挙げる人はいるでしょうか。これは個人の信仰というよりも当時の共同体の信仰がそれほどしっかりしていたからです。信仰がしっかりしていた、だから殉教者が出せたということです。もちろん殉教のない社会の方が良いわけですが、殉教者を出すということは共同体の強い信仰があったからです。

浦和の司教館の近くのお寺で30年前に小さなマリア像が発見されました。それが発見されてから色々歴史が調べられ、川口から2人殉教者を出していることが分かりました。3人の家族で、奥さんはルフィーナという日本人、ご主人はゴンシチという朝鮮半島からの渡来人、そしてその子供の3才のマサユメ。この3人がキリスト教を信じていることが知れて、北町奉行に連れて行かれました。捉えられている時に寒松（カンマツ）というお坊さん（有名な人で、足利学校の校長をした人）が救出を願いますが、結局ルフィーナだけが助け出され、ゴンシチとマサユメは処刑されました。ペトロ岐部と187殉教者の中にも3才の男の子がいます。3才の子供に殉教出来るのでしょうか。

この間、ある教会で子供達を集めて説教した時、「この世の王様と神様とどっちが偉いか？」と聞きました。本当は「この世の権威と神の権威とどちらが上か？」と聞きたかったのですが・・・。皆「神様！」と大きな声で答えました。一番小さな子が3才。3才の子供でも神様の権威の方が上である、神様の方が偉いとはっきりと信仰告白が出来ます。

3才のマサユメは信仰を教えてくれたお父さんに従って連れて行かれ、十字架に付けられ焼かれました。ですから子供だからと言ってバカにはしてはいません。子供は本当に純粋な信仰を持って歩んでいるのです。その子供を惑わせずに、まっすぐに歩ませるのが親の役目です。いずれにせよ、3才の殉教者は余りにも不憫な気がします。皆さん、自分の子供が十字架につけられそうになったらどうしますか。多分、私だったら「この子には何の罪も無い、許してあげてくれ」と言い、その場をしのいで何とか子供を助けようとするでしょう。ゴンシチは自分が十字架に架けられる姿を見せて、子供に信仰を伝えようとし、マサユメはその父の姿を見て、その後について行きました。当時、見た目にはこの世の権威に負けて十字架に架けられ、殺された思想犯でした。しかし今、我々はその信仰を“栄光の殉教”として受けとめています。

当時の殉教者の中には、イエス様よりもっと悲惨な目にあって亡くなった人もいました。“パッション”という映画はイエス様の悲惨な受難を描いたものですが、187人の中にいたハラモンドという人はもっと悲惨な生涯を送った人です。関東で宣教活動をしていた人ですが、その人は両手両足を全て切り取られてしまいました。それでも地下に潜って宣教活動を続け、最後には殉教しました。イエス

様の十字架と殉教者達の十字架との比較は出来ませんが、悲惨さだけ見るともっと悲惨な殉教もあったと言うことです。殉教者達は十字架の上で悲惨な殉教を遂げ、栄光の殉教へ入りました。この世での最期を信仰における勝利へと変えていったのです。

イエス様の十字架が殉教者のそれといくつか違う点があります。人はイエス様を十字架に架ける、人間が神を殺すとう最大の罪を犯しました。しかし、それは神様が人類のために最愛の子イエス様を差し出した、その愛が最も良く現れている瞬間でした。人類が最大の罪を犯した時、神様が最大の救いを開くその瞬間でした。その十字架が全人類の救いの印となり、救いへの道を開け、神様の愛がもっと美しく現れた瞬間でもありました。それは殉教者の十字架においても神の愛が表されたものです。

私達は十字架を見ることはしょっちゅうあります。何の意識もせず食事の時、十字を切ります。時々そのことを思い出すこともありますが、今日は特にこれから行われる十字架の崇敬の時には、私達人類が犯した罪を謝罪し、神様の愛と救いに心から感謝出来れば良いと思います。そして殉教者達の血が無駄にならない様に、私達が今この世の中でどのように殉教を出さない社会を作っていくか、宗教における弾圧、特にキリスト教は未だに中国やベトナムにおいては弾圧を受け、その中で若しんでいる人もいます。日本もいつそうなるか分かりません。そういう時代が来ないように、宗教の自由が保障される社会を私達自身が守っていくことが必要だと感じます。

イエス・キリストの十字架、殉教者の十字架、そして皆さんの背負っていらっしゃる十字架。今日この十字架の前で思い起こしましょう。